

REPERE	SENS PRELEVEMENT	TEMPE	ENERGIE de RUPTURE (IMPACT ENERGY)			FERROSITE DUCTILE	EXPANSION LATERALE
			RATURE °C	IMPOSEE REQUISIT	RESULTATS RESULTATS		
ITEM	ORIENTATION	TEMP	°C	REQUISIT	IMPACT	IMPACT	EXPANSION
NR Z5887	PROBENLAGE	0°C	≥ 80 Moy.	170	159	80	2.2
VD1	Circonférentiel (Longitudinal)	"	≥ 60 Indi.	139		50	1.8
VD2	"	"	"	167		75	2.1
VD3	"	"	"				
AD1	Axial (Travers)	0°C	≥ 80 Moy.	42	83	5	0.7
AD2	"	"	≥ 60 Indi.	42		5	0.7
AD3	"	"	"	165		70	2.2

(出典：フランス原子力安全局の資料より)

警告 原発部品強度不足問題 講演会

フランスで起きたことと日本の原発におけるリスク

2/18 (土)

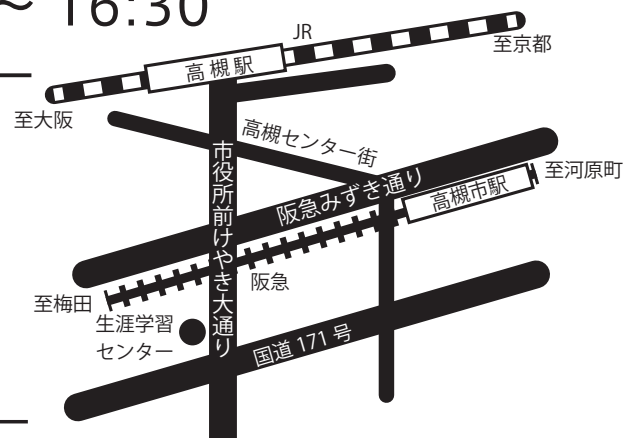
13:30 (開場 13:15) ~ 16:30

高槻市生涯学習センター 第2会議室

高槻市総合センター 3階

大阪府高槻市桃園町 2-1

「JR 高槻駅」「阪急高槻市駅」から
徒歩約 7 ~ 8 分



講師：ショーン・バーニー

(グリーンピース・ドイツ 核問題シニアスペシャリスト)

入場料：500 円

共催：グリーン・アクション / 美浜の会
協力：グリーンピース・ジャパン

問い合わせ：グリーン・アクション

京都市左京区田中関田町 22-75-103

TEL: 075-701-7223 FAX: 075-702-1952 メール: info@greenaction-japan.org

フランスで、日本のメーカーが供給した原子炉圧力容器、蒸気発生器といった非常に重要な機器の部材において、規格を上回る炭素濃度が認められ、強度不足のリスクのため、現在、原子炉を停止するなどして、詳細な調査・検査が行なわれています。

これを受けて、8月24日、日本の原子力規制委員会は、電力会社に対し、部材のメーカーや炭素濃度について報告を指示しました。10月31日、電力会社が、問題はないとする報告書を提出しました。11月22日、原子力規制委員会は、強度不足の恐れはないとする調査結果を取りまとめました。

しかし仏放射線防護原子力安全研究所 (IRSN) は、この強度不足により、破壊、炉心むき出しから溶融にまでつながるリスクを有すると警告しています。慎重な判断が求められます。今回、発覚当初から本件に欧州で取り組んできたグリーンピース・ドイツのショーン・バーニーが、フランスでの欠陥発覚の経緯や、フランスの原子力規制当局の対応の詳細について話します。(グリーンピース・フランスは規制当局と電力会社との会合にも参加しています)



ショーン・バーニー

1990年にグリーンピースの核問題担当となる。東アジア地域の核政策、とくに核燃料サイクル問題や原子力発電所の安全性問題について詳しい。25年以上、日本の核政策をめぐるキャンペーンに関わってきた。1990年代から2000年代初頭にかけて、日本の原発における使用済み核燃料再処理やプルトニウム MOX 燃料利用をとめるキャンペーンを展開。2000年8月から2001年3月まで東京電力福島原発 MOX 燃料装荷差止め裁判に関わった。2011年以降、東京電力福島原発の放射線調査や、欧州の老朽化原発、日本の再稼働の問題にも取り組む。

撮影：Jeremy Sutton-Hibbert

逐次通訳

あり